

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」

小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」



イエス様が与えて下さる平和



主任司祭 遠山満

現在の日本社会が至上目的として掲げていることは、安全・安心な社会ではないかと思えます。『一億総活躍』という現政府が掲げているスローガンも、同一線上にあるのではないかと、疑念を挟んでしまいます。そこには、他国籍の人たちを日本が受け入れると、安全・安心がなくなるので、何とか自分の国で賄っていかうとする思いが見え隠れしています。

けれども、今回、九州地方で発生した大規模な地震も含めて、近年起こっている災害は、私達が自己完結的なシステムで、安全・安心な社会を築いていくことに限界があることを教えてくれます。地震やその他の天災は、私達の技術や予想を遥かに超える事がしばしばだからです。私達、信仰者がこのような時に、真っ先に取り姿勢は、全能の神様の前で跪くことではないかと思えます。「この状況を受け入れます。この状況に感謝します。この状況を通して、あなたの栄光が現れますように」と、跪いて祈ることではないかと思えます。

ところで、イエス様は私たちに、次のように言われています。「私は、平和をあなた方に残し、私の平和を与える。私はこれを、世が与えるように与えるのではない」(ヨハネ 14・27)。イエス様が与えると約束して下さった平和は、どのような平和なのでしょう。私は、このことを思う時、イエス様が弟子達と一緒に小舟に乗り、湖の只中で、荒れ狂う嵐に遭遇された時のことを思い出します。その時、イエス様は、舟の艫の方で枕をして休んでおられました。舟の艫、それは、舟が沈む時、最初に沈む方である、船尾です。イエス様は、そこで静かに眠っておられました。幼子が母親の胸の中で眠るがごとく。父なる神に全幅の信頼を置いて。その姿を通してイエス様は、どんな時にも、神様のみ旨を行うことによって、平和が与えられることを私たちに教えて下さいました。

私達も、まず、イエス様が与えて下さる平和を頂きましょう。イエス様から平和を頂いて、周りの人たちに、その平和を分かち合ってもらいましょう。現代の、この混沌とした世界の中で生きている人々は、イエス様からの平和を渴望しているに違いないのですから。

カトリック笹丘教会 役員会議事録 (抜粋)



開催日時：2016年4月30日(土) 16:00~17:45

開催場所：信徒会館

出席者：遠山神父、川原、松尾、畠山、前田(美)、川原(圭)、牧山

欠席者：前田(史)

司会：川原

書記：牧山

### 1. 一人一役申告状況について

別紙の状況となっている。申告した人は48名。申告はしていないが既に役割を担っている人も合わせると76名。チームによって人数に片寄りが見られるので、結果を発表して、再度呼びかけを行った後に集まってもらう。年内を目処に、それぞれチームの代表を決めて運営していく方向にもっていきたい。

### 2. 今年度目標・テーマについて

6月の拡大信者会で決めたい。それまでに各自テーマと具体的取り組みについて提案をお願いしたい。

### 3. 教会献堂5周年の取り組みについて

大々的には行わず、8/28のアウグスチノ祭と合わせて行うことを、6月の拡大信者会で図る。

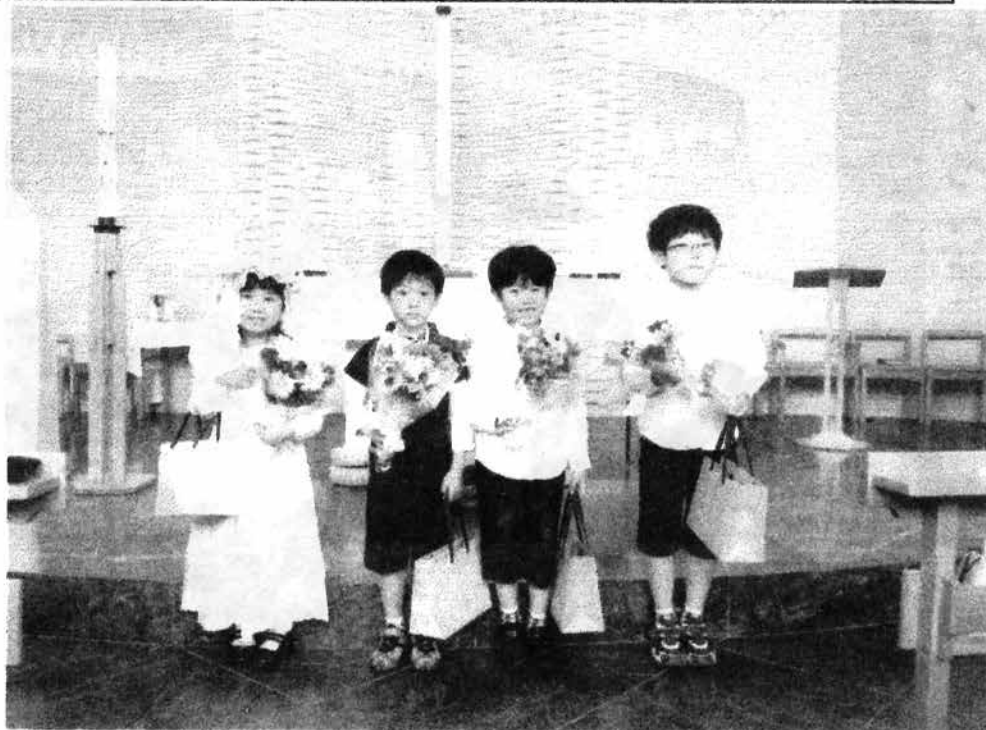
### 4. 今後の予定

- ・5月9日(月)~約2週間 屋根の補修工事(清水建設)
- ・6月11日(土) おやじの会

### 5. その他

- ・熊本地震の募金は現在10万円ちょっと集まっている。今後バザー等でも呼びかけていく。
- ・緊急連絡網を、災害発生時等にも活用することを検討したい。そのためにも今後メールの登録を呼びかけていく。
- ・信者会総会の時に提案のあった、いつくしみの御絵を飾ることについて、御絵の意味について勉強会を行う等して、特別聖年の間期間限定で飾る方向で、6月の拡大信者会で図るようにする。

4月25日 4名の子どもたちの初聖体式があり、小教区は喜びに包まれた。 みんなおめでとう！！



パンとごはんが  
まざったあじがした



ご聖体は予想よりも  
味がうすかったけど、  
うれしかった



あんまりあじがしな  
かった。はなたばをもら  
ってうれしかった



# 2016年、バザー大盛況!!

5月8日(日)午後から雨降りの予報でしたが、  
当日は薄曇りのハサ-開催に最適な天気となりました。  
昨年から手がけたたくさんのお土産、事前準備、当日  
努力の結集でした!!

バザー入場券



ゲームコーナーは  
新しい工夫がいっぱいでした



食堂は大にぎわい

お客様の声  
カレーを食べまじにが本格的ですわ。

お客様の声  
いようすびすわね?



♪ 笹丘ファミリア合唱団 ♪



おかあさん  
いつも ありがとう



フランシスコ神学生  
ヘサメーケロソ

お楽しみ  
抽選会  
お買-物券  
五千円分  
お米-  
何かまたのぞ



呼はれるかな?



委員：今回は2007年笹丘教会だよりに掲載されたIさんの原稿を再掲させていただきました。(一部削除をしています 年代を合わせています)

『私自身今日まで絶えず揺れ動きながらも信心生活を続けることができているのは、今から60年前、生涯忘れられない体験をしたことにあります。

それは昭和31年(1956年)のことです。その年の1月末誕生した私たちの長男が先天性心臓疾患のために僅か3日と半日しか生きることができませんでした。そして初めての赤ん坊を失ったショックから抜け出せないまま、私たちは今度は胃がんの診断を受けた義母(妻の母)の入院手術の際の看病をしました。術後回復したものの約3ヶ月程で義母の病気は再発し、この年の7月、がん末期の苦しみに施す術もなく看取り、旅立ちを見送ったのでした。義母は一度喜びのうちに抱きあげた初孫を一瞬にして失う悲しみを味わったままでした。私たちには何とも大きな心残りでありました。義母は49才、余りに早い親との別れでした。

私たちは遅かれ早かれいずれは別離のかなしみを味わうのですが、実に様々なかたちで死が訪れるものです。私たちの赤ん坊と義母の死もそうです。これらの死因はどちらの場合も医学生物学的に未解決な、生きているからだの仕組みの核心に触れるところにあります。駆け出しの生物学者であった私は改めて生命現象を見つめ直す良い機会を得たのでした。

私たちの二つの死の体験は、未熟な信仰を堅固なものに導くために神様がお与え下さった試練であると冷静に受け止めるには随分日時がかかりました。

死は滅びではなく永遠の生命に至る出発点であることを、神様はイエスの生涯を通して私たにお示しになりました。と』

委員：原稿ありがとうございました。ところで、お育ちになった環境もキリスト教だったのですか？

I氏：仏教でした。毎朝拝み、仏壇に備えてあったご飯をいただくのが習慣でした。

委員：ではいつからキリスト教に興味を持ち、受洗にまで至ったのですか？

I氏：大学時代の教授の影響が大きい。終戦直後の不安定な学生時代、学生運動に関する話し合いを持つために時間をくださいと教授陣にお願いして回った事があります。その時ほとんどの教授は怒り相手にされなかったが、一人だけ黙って最後まで話を聞いてくださった教授がいました。その教授は腰が低く、多才で、人の話に耳を傾け、どうしてこのような言葉かけができるのだろうと感動を覚えるほどの人格者でした。研究分野が同じであったため、後にその教授と一緒に勤務することができました。あらゆる宗教や思想の書物も読みあさりましたが、きっかけは、カトリックの信者であったその教授との出会いであったと言えますね。

ありがとうございました(編集J.N)

## 編集後記

連休の5月4日~5日カリタス福岡・熊本支援センター(「熊セン」)ベースの立ち上げの手伝いに菊池カトリック教会へ行った。現地での作業中にも余震があり、避難所の方々はさぞかし不安な日々を過ごされていることだろうと思った。小教区の皆さんに情報を提供するためこの目で現地を見ておきたいと思い帰路の途中に益城町の被災地を通った。震災被災地の状況を目のあたりにした時、これが現実の世界かと目を疑った。うねった道路。潰された家々。無残な姿となったそれらの建物には赤紙がはられていた。もうカメラを向ける勇気はなかった。そしてすぐに浮かんできたのは聖書のことば、ギリシャ語で「スプラングニゾマイ」(神の深い憐れみ)と訳される言葉。キリストが度々「憐れまれた」と記された「はらわたがよじれるくらい強い痛みを感じる程の憐れみ」キリストがたとえ話で教えてくださったあの善きサマリア人の「憐れみ」のように。

「スプラングニゾマイ」今までで一番実感出来たような気がする。 (Y.K)